

Chapter 1

中央大学のコンピテンシーに関する取組み

大学は、学問の場であると同時に、社会人としての基礎力を身につける場でもあります。

中央大学では、大学生活4年間（大学院進学される方は計6年間）を通じて学生の皆さんに向上してもらいたい能力であるコンピテンシーに関する取組みを進めています。

コンピテンシーに対する理解を深め、自分自身を知り、社会に出るための準備期間として充実した時間を過ごしましょう。

Chapter 1 中央大学のコンピテンシーに関する取組み

大学生活の意義

大学生活は社会に出るための大切な準備期間



社会に出るための大切な準備期間

大学は、学問の場であると同時に、社会人になるための準備期間でもあります。大学生活では一般教養や専門知識を学習することは勿論ですが、授業や課外活動を通じて社会人として必要な基礎力を身につけておくことが必要です。社会に出ると、多くの問題に直面します。その問題の正解は1つとは限りません。正解はなく、自身で正解を作り上げなくてはいけない場面もあります。その状況を乗り越え、活躍していくためには、大学時代からきちんと準備し、社会人としての基礎力を身につけておく必要があります。そのために、まずは、あなた自身の将来の生き方（＝キャリア）について設計図（＝デザイン）をつくるのが役立ちます。大学生活は、あっという間に過ぎてしまいます。今の自分と向き合い、将来について熟く考える時間をもってください。



キャリアデザインの進め方

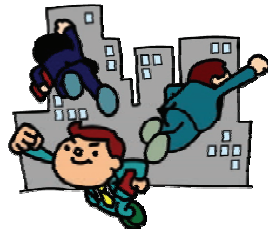
「行き当たりばったり」で大学生活を過ごした人と、目標をもって過ごした人では大きな差がつかます。また、目標は入学時に立てれば変わらないというものではなく、常に変わり続けるものです。

そのため、キャリアデザインに対する達成度合いや次の目標を自身でチェックし、その目標に合わせた活動に取り組むというサイクルを継続的に回していく必要があります。また、具体的にどのような力を高めていくのかを知ることで目標を達成するためのモチベーションを喚起することにつながります。「キャリアデザイン」を通じて高めていく力として「コンピテンシー」という能力を理解することが重要となります。

学問の場



社会に出るための準備の場



Chapter1 中央大学のコンピテンシーに関する取組み

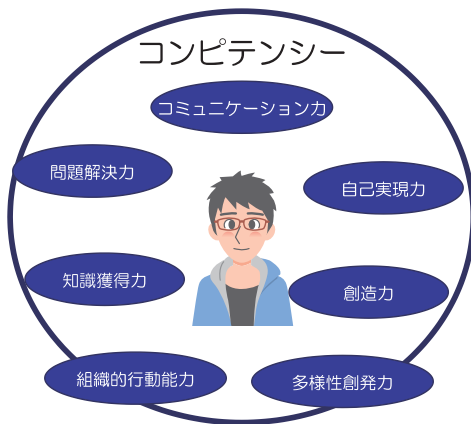
コンピテンシーとは

コンピテンシーとは、社会で活躍するために必要な力



コンピテンシーとは社会で活躍するために必要な力

コンピテンシーとは、社会で活躍している人々に共通して見られる行動、態度、思考などの傾向や特徴を意味し、社会で成果を上げることに必要な要素で構成されたものです。常に「成果」を求められる社会において、問題解決に向けた力を継続的に発揮できる能力として、「学力」に加え「コンピテンシー」という能力についての理解を深め、向上させる必要があります。例えば、非常に高いレベルの知識・技術を結集した製品を開発したが、それをわかりやすく説明する力が乏しいと、素晴らしい製品の魅力が十分に伝わらず、成果を上げることが難しくなってしまいます。



中央大学で設定しているコンピテンシー項目

中央大学では、独自の行動特性(=コンピテンシー)として、7カテゴリー31キーワードを設定し、各キーワードごとにレベル0からレベル5まで段階分けした評価基準を設けています。(P. 11~16参照) 授業科目や、課外行事等を通じて、専門的知識・技術の向上と合わせて、それぞれのコンピテンシーの向上を図ることが重要となります。

コンピテンシー レベル設定と定義・行動例

レベル	レベル定義	行動例	
0	問題行動	行動していない、あるいは誤った行動をする	誰かに指示されてもやらない 正しい行動ができていない やっではない行動をする
1	指示待ち行動	指示待ち行動	誰かに指示されたのでやる程度 典型的な「指示待ち族」
2	通常行動	やるべきことをやるべきときにやった行動	何も言われなくても行動は起こすが、単なるマニュアル的行動
3	自主的行動	明確な意図や判断に基づいた行動	マニュアル的行動を起こす前に、自分なりに「考え行動」するが、そこに独自の発想はない
4	独創的行動	独自の効果的工夫を加えた行動、状況を変化させようという行動	行動を起こすにあたって、事前に問題を把握している。また問題解決にあたり他者より秀でた独自の「工夫」が見られる
5	創発的行動	多様性(文化・習慣・価値観等)を活かし、新たな価値を生み出そうという行動	多様性(文化・習慣・価値観等)を考慮して問題を解決し、相乗効果を生み出す行動

Chapter 1 中央大学のコンピテンシーに関する取組み

中央大学におけるコンピテンシー定義一覧(1)

求められる行動特性と自分の現状のレベルを確認しよう

定義一覧

カテゴリー	キーワード	定義	レベル0	レベル1	レベル2
コミュニケーション力		他者の意見あるいは記述された文章を正しく理解したうえで、それに対する自分の意見を明確に表現する。効果的な説明方法や手段を用いて、関係者を納得させる	相手を理解し、相手に自分の意見を伝えることができない	相手の意見を一通り理解し、相手に自分の意見を一通り伝えていく	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで円滑なコミュニケーションを図っている
	傾聴力	他者の意見を聞き、正しく理解し、尊重する	意見を聞き、理解することができていない	相手の意見を一通り理解している	相手の意見を十分理解している
	読解力	記述された内容を正しく理解する	記述された内容を理解できていない	記述された内容を理解しようとしている	記述された内容を十分理解している
	記述力	正しい文章で他者が理解できるように記述する	記述された文章が他者が理解できない、あるいは、記述された文章に重大な誤りがある	正しい文章で、他者が一通り理解できるよう記述することができる	正しい文章で、他者が十分理解できるよう記述することができる
	提案力	適切な手順・手段を用いてわかりやすく説明し、自分の意見を効果的に伝える	効果的な手順・手段を用いてわかりやすく説明できない	効果的な手順・手段を用いてわかりやすく説明しようとしている	効果的な手順・手段を用いてわかりやすく説明できている
	議論力	議論の目標を設定し、それに合わせて議論を展開する	一方的な主張に終わっている。あるいは意見を述べていない、誤った意見のために議論にならない	議論の目標を設定し、それに合わせて議論を展開しようとしている	議論の目標を設定し、それに合わせて議論を展開している
問題解決力		課題を正しく理解する。解決策を立て実行する。その結果を検証し、計画の見直しや次の計画への反映を行う	与えられた課題を正しく理解できない	与えられた課題を正しく理解し、解決をおこなっている	自ら発見した課題、もしくは与えられた課題を正しく理解している。解決策を立て、実行している
	課題発見	現状と目標（あるべき姿）を把握し、その間にあるギャップの中から、解決すべき課題を見つけ出す	与えられた課題を正しく理解できない	与えられた課題を正しく理解できている	現状と目標を把握し、その間にあるギャップの中に問題を見つけている
	課題分析	課題の因果関係を理解し、真の原因（本質）を見出す	課題の因果関係や本質を理解できない、または、見出せない	課題の因果関係や本質を理解しようとする努力をしている	課題の因果関係を理解し、そこから本質を見出すよう努力している
	論理的思考	複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。論理的に自分の意見や手順を構築・展開できる	複雑な事象を整理し、構造化できない	複雑な事象を整理し、構造化しようとする努力をしている	複雑な事象を整理し、構造化できる
	計画実行	目的と目標を設定し、順序立てて計画して確実に実行する	場当たり的な行動をしている	目的と目標を設定し、計画を立てているが、計画倒れで実行イメージが伴わない	目的と目標を設定し、計画を立ててそれを実行している
	検証	計画して実行した結果を正しく評価し、計画の見直しや次期計画への反映を行う	結果を検証していない	結果を一通り検証している	結果を正しく評価している
	知識獲得力		継続的に深く広く情報収集に努め、取捨選択した上で、知識やノウハウを習得し、関連付けて活用する	自ら情報収集し、新しい知識やノウハウを習得することができていない	一通り情報収集し、新しい知識やノウハウを習得することができる
学習		専門知識のみならず自然科学および人文社会科学に関するものも含めて、幅広い分野で知識やノウハウを深く習得することを継続する	自ら新しい知識やノウハウを習得できていない	限定的な知識やノウハウの習得に留まっている	自ら新しい知識やノウハウの習得に努めている
応用力		入手した知識やノウハウを関連付けて活用する	入手した知識やノウハウが関連付けられていない	入手した情報や知識やノウハウが一通り関連付けられている	入手した知識やノウハウを関連付けて活用している
情報収集力		必要な情報を入手し、精査した上で、取捨選択して自分のものとする	必要な情報が入手できない	一通り遍の情報を入手に留まっている	情報を入手し、精査している

Chapter 1 中央大学のコンピテンシーに関する取組み

中央大学におけるコンピテンシー定義一覧(2)

求められる行動特性と自分の現状のレベルを確認しよう

定義一覧

カテゴリー	キーワード	定義	レベル0	レベル1	レベル2
組織的行動能力		チーム、組織の目標を達成するために何をすべきか、複数の視点から多面的、客観的に捉え、適切な判断を下し、当事者意識をもって行動する。その際、他者とお互いの考えを尊重し、信頼関係を築いてそれを維持しつつ行動する	チームで作業ができない、自己中心的な行動をとる	指示されると作業できるが、目標を達成するために自ら動かない	チームでの作業、行動において共通の目標を理解し、達成するために当事者意識を持って行動する
	バランス力	複数の視点から、多面的、客観的に物事を捉えた適切な判断を基に行動する	視野が狭く、周りが見えない。偏った考え方をとする	事実に基づいた視点で客観的に物事を捉えている	複数の視点から多面的、客観的に物事を捉えている
	役割認識	チーム、組織の目標を達成するために個人の役割を理解し、当事者意識を持って行動する	自分の役割を認識していない	自分の役割を認識しているが、行動に移せない	個人の役割を理解し、当事者意識を持って行動している
	主体性	物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動する	誰かに指示されてもやらない、できない	誰かに指示されたことのみ行っている	何も言われなくても行動は起こすが、単なるマニュアルの行動をとる
	協働	共通の目標を達成するためにお互いの考えを尊重し、信頼関係を築くような行動をとる	チームで作業ができない、自己中心的な行動をとる	チームで作業できるが、目標を達成するために自ら動かない	チームでの作業、行動において共通の目標を理解し達成するため行動できる
	率先力	先に立って実践する。先に立って模範を示し、他を誘導する	行動しない	他者に従って、あるいは真似をして行動している	先に立って実践している
創造力		知的好奇心を発揮して様々な専門内外のことに興味をもち、それらから着想を得て今までになかった新しいアイデアを発想する。その際、関連法令を遵守し、倫理観を持って社会に対して負っている責任を果たす	新しい発想や技術を知っても興味を持たない	普段から自分が興味のある分野について情報収集し、新しい発想や技術に関心を払っている	自分の専門内外に関わらず幅広い知的好奇心を持ち新たな知識を意欲的に取り入れ、物事に取り組みうとする
	発想する力	既存の枠にとらわれず、今までに無かった新しいアイデアを生み出す	新しい考え方を持とうとしない	ヒントを与えられた場合、新しい考え方で物事にとり組む	自分で適切なデータを収集・参照し、新しい考え方で物事に取り組む
	推論する力	経験のないことや将来起こりうることを推し量る	経験のないことや将来起こりうることを推し量ることができない	既知の事柄をもとにして経験のないことや将来起こりうることを推し量ろうとする	既知の事柄をもとにして経験のないことや将来起こりうることを推し量る
	感動する力	すぐれた芸術や技術、あるいは斬新なアイデアに接して強い印象を受け、新たな取り組みの原動力とする	すぐれた芸術や技術、あるいは斬新なアイデアに興味を持たない	すぐれた芸術や技術、あるいは斬新なアイデアに興味を持つ	すぐれた芸術や技術、あるいは斬新なアイデアに接して強い印象を受け、心を奪われる
	探求する意欲	旺盛な知的好奇心を持ち、専門であるなしに関わらず、未知の知識を取り入れようとする	新たな知識を得ようという姿勢を持たない	普段から自分が興味のある分野について情報収集の努力をしている	自分の専門内外に関わらず幅広い知的好奇心を持ち、新たな知識を取り入れよう、一部は実際に行動している
	倫理	関連法令遵守。自らの取り組みや仕事社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会に対して負っている責任を果たす	関連法令を理解していない	関連法令を理解して遵守している	関連法令を理解して遵守している。自らの取り組みや仕事社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会に対して負っている責任を認識している

レベル3	レベル4	レベル5
チーム、組織の目標を達成するために何をすべきか、複数の視点から多面的、客観的に捉え、適切な判断を下し、当事者意識をもって行動する。その際、他者とお互いの意見を尊重し、信頼関係を築くような行動をとる	チーム、組織の目標を達成するために何をすべきか、関係者の利害を幅広く考慮したうえで適切な判断を下し、自ら進んで行動を起こすだけでなく、目指すべき方向性を示し、他を導いている	多様性（文化・習慣・価値観等）を有する集団の中で集団や集団が属する組織の目標を達成するために何をすべきか、関係者の利害を幅広く考慮したうえで適切な判断を下し、自ら進んで行動を起こすだけでなく、目指すべき方向性を示し、他を活かしつつ導いている
複数の視点から多面的、客観的に物事を捉えた適切な判断を基に行動している	複数の視点から多面的、客観的に物事を捉え、影響範囲や関係者の利害を幅広く考慮したうえで適切な判断を下し、それを基に行動している	多様性（文化・習慣・価値観等）を有する集団の中で複数の視点から多面的、客観的に物事を捉え、影響範囲や関係者の利害を幅広く考慮したうえで適切な判断を下し、それを基に行動している
個人の役割を理解し、当事者意識を持って行動する。また状況によって役割を柔軟に変え行動する	基本的な役割を理解したうえで行動する。また状況ごとに役割を柔軟に変え、役割を超えた働きをする	多様性（文化・習慣・価値観等）を有する集団の中で基本的な役割を理解したうえで行動する。また状況ごとに役割を柔軟に変え、役割を超えた働きをする
物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動している	物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動し、その行動に工夫・独自性が見える	多様性（文化・習慣・価値観等）を有する集団の中で物事に対して自分の意志・判断で責任を持って行動し、その行動に工夫・独自性が見える
チームでの作業、行動をするとき、共通の目標を達成するためにお互いの考えを尊重し、信頼関係を築くような行動をとる	チームでの作業、行動をするとき、共通の目標を達成するためにお互いを尊重し、信頼関係を構築・維持しようとする行動をする	多様性（文化・習慣・価値観等）を有する集団の中で作業、行動をするとき、共通の目標を達成するためにお互いを尊重し、信頼関係を構築・維持しようと自ら工夫して行動する
先に立って実践している。先に立って模範を示し、他を誘導している	先に立って実践している。先に立って模範を示し、他を誘導している。さらに目指すべき方向性を示し、他を導いている	多様性（文化・習慣・価値観等）を有する集団の中で先に立って実践している。先に立って模範を示し、他を誘導している。さらに目指すべき方向性を示し、他を活かしつつ導いている
知的好奇心を発揮して様々な専門内外のことに関心をもち、それらから着想を得て今までになかった新しいアイデアを発想することができる。その際、関連法令を遵守し、倫理観を持って社会に対して負っている責任を果たす	知的好奇心を発揮して様々な専門内外のことに関心をもち、それらから着想を得て社会に貢献するような独自のアイデアを発想することができる。その際、関連法令を遵守し、倫理観を持って社会に対して負っている責任を果たす	絶えず変化する多様性を増す環境の中で、知的好奇心を発揮して様々な専門内外のことに関心をもち、それらから着想を得て社会に貢献するような独自のアイデアを発想することができる。その際、関係する国・地域の法令や国際法を遵守し、倫理観を持って社会に対して負っている責任を果たす
経験したことがないことでも既存の枠にとらわれない、今までに無かった新しいアイデアを生み出すことができる	これからの社会に示唆を与え貢献するような、独自のアイデアを生み出すことができる	絶えず変化する多様性を増す環境の中で、これからの社会に示唆を与え貢献するような、独自のアイデアを生み出すことができる
前例のないことについて将来起こりうることを推し量る	前例のないことについて将来起こりうることを複数通り推し量る	絶えず変化する多様性を増す環境の中で、前例のないことであっても将来起こりうることを複数通り推し量る
すぐれた芸術や技術、あるいは、斬新なアイデアに接して強い印象を受け、新たな取り組みの原動力とする	すぐれた芸術や技術、あるいは、斬新なアイデアに接して強い印象を受け、積極的に新たな取り組みの原動力とする	絶えず変化する多様性を増す環境の中で、すぐれた芸術や技術、あるいは、斬新なアイデアに接して強い印象を受け、積極的に新たな取り組みの原動力とする
自分の専門内外に関わらず幅広い知的好奇心を持ち、新たな知識を意欲的に取り入れようと、実際に行動している	自分の専門内外に関わらず幅広い知的好奇心を持ち、新たな知識を意欲的に取り入れようと、積極的に行動している	変化する環境、多様な環境の中で、自分の専門内外に関わらず幅広い知的好奇心を持ち、新たな知識を意欲的に取り入れようと、積極的に行動している
関連法令を理解して遵守している。自らの取り組みや仕事社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会に対して負っている責任を認識し、一部は実際に行動している	関連法令を理解して遵守している。自らの取り組みや仕事社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会に対して負っている責任を認識し、その責任を果たす	関係する国・地域の法令や国際法を理解して遵守している。絶えず変化する多様性を増す環境の中で、自らの取り組みや仕事社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、社会に対して負っている責任を認識し、その責任を果たす

Chapter 1 中央大学のコンピテンシーに関する取組み

中央大学におけるコンピテンシー定義一覧(3)

求められる行動特性と自分の現状のレベルを確認しよう

定義一覧

カテゴリー	キーワード	定義	レベル0	レベル1	レベル2
自己実現力		自らを高めるため、常に新しい目標を求め、その実現のために道筋を考え、努力する。その際、自己管理と改善のための工夫を怠らない	目標を見つかけようとせず、与えられても達成しようと思わない	目標があるとそれを達成したいと思い努力する	自ら明確な目標を定め、その実現のために道筋を考え、努力する。その際、自己管理を怠らない
	目標設定	自らを高めるための適切な目標を設定する	目標を設定することができない	おぼろげな目標を設定することができる	明確な目標を設定することができる
	スケジュール管理	目標の実現のために適切な行動計画を立案し、計画遂行のために(メモを取るなどの)スケジュール意識を持って行動する	スケジュール意識がない。いつ何をしなければならぬかを把握していない	スケジュール意識はあるがメモを取らない。いつ何をしなければならぬかを理解しているが一部できない	スケジュール意識があり、メモを取る。行動計画の立案はできるが、突発的な事態に対応できない
	自己管理	目標達成のために必要な日常生活の管理(時間管理、衛生管理、健康管理、金銭管理など)を行い、適時的確な行動を取る	日常生活の管理を怠っている	日常生活の管理を行っている	日常生活の管理を行っている。定期的に健康診断を受け、普段の生活に生かして体調を崩さないようにする
	ストレスコントロール	ストレスと上手に付き合い、それによる悪影響を最小に抑える	ストレスの解消法を知らず溜め込んでしまう	ストレスが溜まると察知して解消するが、これ以上蓄積しないよう行動する	普段から自分のストレスを意識的にチェックし、自分に合った方法で解消することができる
	達成志向	普段から新しい目標を求めており、自分で設定してそれを達成しようとする道筋を立て、努力する。改善のための工夫をする	目標が与えられても達成しようと思わない。最初からあきらめている。すぐにあきらめる	目標が与えられるとそれを達成しようとする	普段から新しい目標を求めており、自分で設定してそれを達成しようとする
多様性創発力		多様性(文化・習慣・価値観等)に適切に対応しつつ、自らの存在感を高め、その協同から、相乗効果を生み出すことで、新たな価値を得る	多様性(文化・習慣・価値観等)を意識していない	多様性(文化・習慣・価値観等)を意識し、理解しようとしている	多様性(文化・習慣・価値観等)を理解し、受け入れ、複数人の協同により、人数相応の成果は得られていないが、一定の成果がある
	自確力(Identity)	自らの慣れ親しんだ文化・習慣・価値観等を正しく理解したうえで、自分が何を望むか、かつ、まわりが自分を望んでいるのかを判断し、行動する	異なる文化・習慣・価値観等に接したときに、自らの慣れ親しんだ文化・習慣・価値観等を意識しない	自らの慣れ親しんだ文化・習慣・価値観等を意識し、理解しようとしている	自らの慣れ親しんだ文化・習慣・価値観等を正しく理解している
	融合力(Harmonization)	異なる文化・習慣・価値観等の相互理解を得て適切に対応し、互いに学び続けている	異なる文化・習慣・価値観等の存在を意識していない	異なる文化・習慣・価値観等の存在を意識し、理解しようとしている	異なる文化・習慣・価値観等を理解し、受け入れている
	協創力(Synergy)	多様性(文化・習慣・価値観等)がある複数人の協同により、相乗効果を生み出すことで、新たな価値を得る	多様性(文化・習慣・価値観等)がある複数人の協同にもかかわらず、むしろマイナスの成果となっている	多様性(文化・習慣・価値観等)がある複数人の協同にもかかわらず成果が得られない	多様性(文化・習慣・価値観等)がある複数人の協同により、人数相応の成果は得られていないが、一定の成果がある

レベル3	レベル4	レベル5
<p>自らを高めるため、常に新しい目標を求め、その実現のために道筋を考え、努力する。その際、自己管理と改善のための工夫を怠らない</p>	<p>自らを高めるため、常に新しい目標を探しており、見つけるとその達成のために最短の道筋を考えてそれをもとに努力する。失敗してもあきらめず、繰り返し挑戦する</p>	<p>絶えず変化し多様性を増す環境の中でも自らを高めるため、常に新しい目標を探しており、見つけるとその達成のために最短の道筋を考えてそれをたどるために努力する。失敗してもあきらめず、繰り返し挑戦する</p>
<p>自らを高めるための適切な目標を設定し、さらにそれを達成するための具体的な指標を設定することができる</p>	<p>継続的に自らを高めるための適切な目標を設定し、さらにそれを達成するための具体的なかつ最適な指標を設定することができる</p>	<p>絶えず変化し多様性を増す環境の中でも継続的に自らを高めるための適切な目標を設定し、さらにそれを達成するための具体的なかつ最適な指標を設定することができる</p>
<p>行動計画の立案ができ、突発的な事態に対応できる</p>	<p>行動計画の立案ができる。突発的な事態に臨機応変に対応し、必要に応じて適切な対応、調整ができる</p>	<p>絶えず変化し多様性を増す環境の中でも行動計画の立案ができる。突発的な事態に臨機応変に対応し、必要に応じて適切な対応、調整ができる</p>
<p>日常生活の管理を行っている。定期的な健康診断を受け、その結果を踏まえて健康維持のための積極的な取り組みを行っている。発生しうる事態を想定している</p>	<p>日常生活の管理を行っている。定期的な健康診断を受け、その結果を踏まえて健康維持のための積極的な取り組みを継続的に行っている。発生しうる事態に対応し予防策、対処法を計画している</p>	<p>絶えず変化し多様性を増す環境の中でも日常生活の管理を行い、発生しうる事態に対応し予防策、対処法を計画し、備えている</p>
<p>普段から自分のストレスを意識的にチェックし、自分に合った方法で上手に解消することができる</p>	<p>普段から自分のストレスを意識的にチェックし、強いストレスを感じた際も、自分に合った方法で解消したり低減したりすることができる</p>	<p>絶えず変化し多様性を増す環境の中でも自分のストレスを意識的にチェックし、強いストレスを感じた際も、自分に合った方法で解消したり低減したりすることができる</p>
<p>普段から新しい目標を求めており、自分で設定してそれを達成しようと努力する。そのための道筋を立て、改善のための工夫を怠らない</p>	<p>普段から新しい目標を求めており、自分で設定してそれを達成しようと努力する。失敗しても効果的な改善を行い、あきらめず繰り返し挑戦する</p>	<p>絶えず変化し多様性を増す環境の中でも新しい目標を求めており、自分で設定してそれを達成しようと努力する。失敗しても効果的な改善を行い、あきらめず繰り返し挑戦する</p>
<p>多様性（文化・習慣・価値観等）を理解し、受け入れるとともに、自らの慣れ親しんだ文化・習慣・価値観等を伝えている。複数人の協同により、人数相応の成果を得ている</p>	<p>多様性（文化・習慣・価値観等）の相互理解を得て適切に対応しつつ、自分が何を望むか、まわりが自分に何を望んでいるのかを総合的に判断し、行動している。複数人の協同により、相乗効果を生み出している</p>	<p>多様性（文化・習慣・価値観等）に適切に対応しつつ、自らの存在感を高め、その協同から、相乗効果を生み出すことで、新たな価値を得ている</p>
<p>自らの慣れ親しんだ文化・習慣・価値観等を正しく理解し、自分が望む行動、あるいはまわりが自分に望む行動をしている</p>	<p>自らの慣れ親しんだ文化・習慣・価値観等を正しく理解したうえで、自分が何を望むか、かつ、まわりが自分に何を望んでいるのかを判断し、行動している</p>	<p>自らの慣れ親しんだ文化・習慣・価値観等を正しく理解したうえで、自分が何を望むか、かつ、まわりが自分に何を望んでいるのかを判断し、行動することで存在感を高めている</p>
<p>異なる文化・習慣・価値観等を理解し、受け入れるとともに、自らの慣れ親しんだ文化・習慣・価値観等を伝えている</p>	<p>異なる文化・習慣・価値観等の相互理解を得て適切に対応している</p>	<p>異なる文化・習慣・価値観等の相互理解を得て、適切に対応し、互いに学び続けている</p>
<p>多様性（文化・習慣・価値観等）がある複数人の協同により、人数相応の成果を得ている</p>	<p>多様性（文化・習慣・価値観等）がある複数人の協同により、相乗効果を生み出している</p>	<p>多様性（文化・習慣・価値観等）がある複数人の協同により、相乗効果を生み出すことで、新たな価値を得ている</p>

Chapter1 中央大学のコンピテンシーに関する取組み

「知性×行動特性」学修プログラム

社会で活躍するための力を育む中央大学独自のプログラム

▶▶▶ 「知性×行動特性」学修プログラムとは

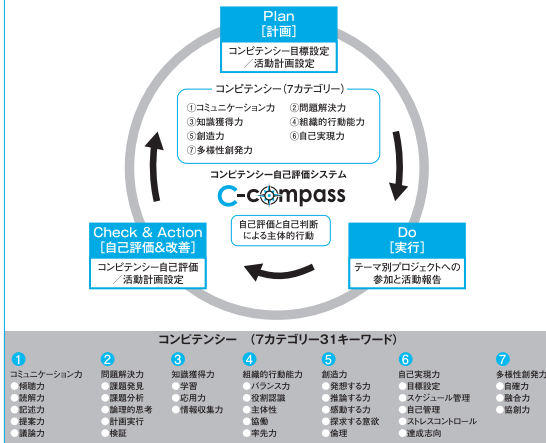
中央大学では、建学の精神である「實地應用ノ素ヲ養フ」に基づき、大学卒業後も社会的・職業的自立をはかるために必要な能力として、「『知性（専門知識・技術）』×『行動特性（実地応用する力）』」を掲げています。また、この2つの能力を高めるためのプログラムを総称して、「『知性×行動特性』学修プログラム」と呼んでいます。

これは、授業などの学びの場を通して修得した「知性」と、授業を含めた大学生活のさまざまな場で獲得した「行動特性（= コンピテンシー）」を相乗的に向上させることを意味しています。

また本プログラムでは、とりわけコンピテンシーを高める場として「プロジェクト」を設定しています（P.24参照）。プロジェクトに計画的・主体的に参加し、また成果を把握するためのシステム「C-compass」を活用することで、「社会で活躍するために必要な力」を大学生活の4年間を通じて計画に身につけることができます。

■『知性×行動特性』学修プログラム』の全体像

学生は、プログラムを通じて大学卒業後に社会的・経済的自立を図るために必要な能力の向上を目指しています。



コンピテンシーを伸ばすための具体的な取組として、関連する授業科目と課外講座・行事を特定テーマ毎に構成した「テーマ別プロジェクトへ」を設定し、全学レベルでの体系的な取組みを行っています。

○テーマ別プロジェクト
16テーマ140以上の取組みを設定 (2014年1月現在)

学部教育プロジェクト (法学部)	グローバルプロジェクト
学部教育プロジェクト (経済学部)	グローバルプロジェクト (留学生対象)
学部教育プロジェクト (商学部)	キャリア教育プロジェクト
学部教育プロジェクト (理工学部)	インターシッププロジェクト
学部教育プロジェクト (文学部)	社会・地域貢献プロジェクト
学部教育プロジェクト (総合政策学部)	職業養成プロジェクト (公務員)
大学院教育プロジェクト	職業養成プロジェクト (教員)
FLPプロジェクト	その他